

11/15-早稿

東京五輪汚職

検証なき招致の危うさ

論說

2022·11·15

新規監視・ハーリングスクを主導する活動事件の捜査が終結した。国領の公金を盗んだ疑犯が、大賤横領な賭博の資金になっていた。国領も国際社会の信頼を取り戻すには、なぜ事件が起きたのか、国連本部による説明検証が必要だ。それなりに二〇一〇年冬祭り大会の招致はあり得なん。事件の広がりにあわんとする受託取扱業で起訴された大余組織幹員会元理事、高橋治(被罰)など、の詮組網は約二億円。廿十人が起訴され、贈収賄は主に制服「AOKIホールディングス」、出版「KADOKAWA」など書籍大手の元トップが並ぶ。

高橋さんは大手ホール、バーを経て、業務受注を希望する企業の意向を聞き、組織会に口頭のヒントを提供していくところが特徴的である。高橋性を規定づけておき、裁判では検察との全面的決戦(「始動原因」)。

たが、「みんなの健康」の意味で金を受け取つて、たとえばはねわらうない。なぜ「んな事態がまかり

問題を指摘せりやうがない。
組織部は役所や人材の苟り合いで
所帶。本務S多く在法苦大半一筋

通」は「丸姫」していただけ、同社元年穀の高橋被告が影響力を使っていた。賃通も、〇八の春の

まさに物語りでいたのなら、さうした
な仕事ぶりと重複はない。
組織婆のガバナンス（統治）は
不十分で、情報公開の仕組みも過

えていない不透明な「アラシックボックス」だった。起きた出来事でして起きた事件ではないか。

その結果をもとに外敵に
對する機本の御大會長、竹田恒
和元副会長らは説明責任を果たす
としている。無責任の極みだ。

西郷が勝機を世界に紹介し、西郷の公金を支出した大金だ。西郷は中立的な第三者機関を立ち上げ、象徴的である西郷が立派。

東京大会の検証も説明もないま
ま、二〇〇年冬季東京大会の招致活
動が続いているのは疑惑に映る。

札幌市は日本オリエンピック委員会（JOC）は九月「公正でクリーンな大會」へ向けた「宣言文」を公表した。都も再発防止に向かって有識者会議を開催するといふ。

しかし、不正を生んだ大会の撤消的問題を説明しなければ、実効性ある対策にはつながらない。

五輪に勝らず、行政が民間に投げまる義務は多い。眞の再発防止策を講じなければ、同様の不正は繰り返されるに違いない。